

中学校体育授業「剣道」における指導内容の検討 —男女共修のあり方を中心に—

木原 資裕*, 西本 浩章**, 中野竜太郎***,
徳永綜一郎***, 木島 拓也***, 中本 貴規***,
藤岡 莉子***, 篠原 健真****, 田村 律子****

(キーワード：中学校体育授業, 剣道, 男女共修)

1. はじめに

全日本剣道連盟は平成19年3月に「剣道指導の心構え」を次のように制定し、剣道指導にあたっての要点を示し、剣道指導者自身の修行のあり方とリンクさせている³⁾。

○竹刀の本意

【剣道の正しい伝承と発展のために、剣の理法に基づく竹刀の扱い方の指導に努める。】

剣道は、竹刀による「心気力一致」を目指し、自己を創造していく道である。「竹刀という剣」は、相手に向ける剣であると同時に自分に向けられた剣でもある。この修錬を通じて竹刀と心身の一体化を図ることを指導の要点とする。

○礼法

【相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んずる指導に努める。】

剣道は、勝負の場においても「礼節を尊ぶ」ことを重視する。お互いを敬う心と形(かたち)の礼法指導によって、節度ある生活態度を身につけ、「交剣知愛」の輪を広げていくことを指導の要点とする。

○生涯剣道

【ともに剣道を学び、安全・健康に留意しつつ、生涯にわたる人間形成の道を見出す指導に努める。】

剣道は、世代を超えて学び合う道である。「技」を通じて「道」を求め、社会の活力を高めながら、豊かな生命観を育み、文化としての剣道を実践していくことを指導の目標とする。

これらは、もちろん剣道愛好家の集団である剣道連盟の指針ではあるが、学校体育授業の中でも考慮し、重視しなければならない剣道指導内容でもあろう。

さらに、平成24年に中学校体育授業において武道必修

化がなされ、学習指導要領で剣道授業に求められていることを概要としてまとめると、以下のようになる¹⁰⁾。

- ①基本となる技能(相手の動きの変化に対応した攻防)
- ②発達段階に応じた内容の指導
- ③対人的技能の指導は、順序性を考慮
- ④「態度」の観点では、伝統的な行動の仕方を守ろうとする態度(相手を尊重・剣道の特性への関心など)
- ⑤「知識・思考・判断」は、剣道の特性・歴史、伝統的な考え方の理解

前述した「剣道指導の心構え」ならびに学習指導要領で示された剣道授業に求められていることを実践するには、多大な教材研究の蓄積と指導経験を要するものと思われる。しかしながら、現実には施設・用具等々の問題を抱えながら、剣道経験のあまりない体育教師によって剣道授業を担わなければならない状況が想定される。

筆者らは鳴門教育大学大学院の授業「教育実践フィールド研究」において、これまで平成23～25年の3年間にわたり、剣道経験のない教育実習生が剣道授業を行う状況をビデオ撮影し、剣道経験のない指導者が陥りやすい問題点を指摘してきた⁴⁾⁵⁾。

また、平成27年度においては、中学校体育授業「剣道」における段階的指導の検討を行った。その内容は以下のものであり、剣道に初めて接する生徒を対象とした剣道の授業実践に有益な示唆を得るものであった⁶⁾。

- 1) 素足の抵抗感対策
- 2) 楽しさからの対人的動きの学習
- 3) 大きな声をだす学習
- 4) 相手と呼吸を合わせる学習
- 5) 竹刀の代用品を使用
- 6) 竹刀操作の前に竹刀を使わないイメージトレーニング

今回の「教育実践フィールド研究」では、鳴門教育大

*鳴門教育大学 芸術・健康系教育部

**鳴門教育大学 芸術・健康系教育部 嘱託講師

***鳴門教育大学大学院 生活・健康系コース(保健体育)

****鳴門教育大学附属中学校

学附属中学校より「中学校剣道授業における男女共修の在り方について」とのテーマで研究協力要請があり、体育授業での男女共修の剣道指導法のあり方を検討することとした。

2. 男女共修に関する先行研究と本研究の構想

剣道授業における男女共修に関する論文ならびに実践報告書はこれまで発表されておらず、筆者らが目にする剣道授業形態の多くは男女別修である。また、男女合同のクラスであっても、授業の中では男女それぞれ別グループでの授業実践であり、真の意味での男女共修の形態になっていない。

筆者らが管見したところ、フットサル・マット運動・ダンス等の授業研究に男女共修に関するものが見られた¹³⁾¹⁴⁾¹⁵⁾²⁰⁾²¹⁾²⁶⁾。それらを元に、剣道での男女共修授業の構想を考えた時に、男女が互いに試合形式で打ち合う授業よりも、剣道基本技稽古法の形を演ずる発表会形式の授業展開にできれば、男女が互いに助け合いながらの剣道授業が展開できるのではないかと仮説に至った。

3. 平成28年度附属中学校における剣道授業実践

1) 授業対象と期間および授業実践者

本研究の剣道授業実践は平成28年11月および12月になされたものである。

- ①対象：鳴門教育大学附属中学校1年2組（男子19名・女子21名）と4組（男子19名・女子21名）
- ②授業者：大学院生A（剣道指導経験なし・剣道授業受講経験あり・男子23歳）
- ③期間：平成28年11月30日～12月13日（この間に各組6回の授業実践）

なお、期間中に学校行事等が予想されたため、1時間の予備授業時間を確保していた。しかし、学校行事が体育授業時間と重複せず終了したため、予備の体育授業時間は、指導教員B（剣道指導経験36年・男子61歳）が剣道授業を行った。

2) 学習指導単元計画

授業者である大学院生Aにより、単元計画と授業指導案が下記のように作成された。なお、毎回授業終了時に授業評価と感想を記入する調査用紙も配布した。

①指導にあたって

○教材観

武道は、武技・武術などから発生した我が国固有の文化として伝統的な行動の仕方が重視される運動で、相手の動きに応じた攻防ができるようにすることをねらいとし、自己の能力に適した課題の解決に取り組んだり、勝

敗を競い合ったりする運動である。

剣道は、日本の伝統文化として継承され発展してきた武道である。礼儀を尊重し、相手に感謝するという気持ちを重視する運動でもある。

○生徒観

剣道はほとんどの生徒が初めて取り組む領域であると思う。そのため、生徒に対し、どのような工夫によって興味関心を持たせるかが重要であると思う。

男女共修に対して、嫌なイメージを持っている生徒も少なからずいると思われる。

○指導観

初心者であることを考慮しながら、しっかりとした礼法、基本動作、素振り、基本打ちを身につけるということを目標に指導したい。

基本動作（構え、足さばき等）を正しく身につけるとともに、対人技能（基本打ち、二段打ち等）を習得し、技能の程度に応じた練習ができるようにする。

禁止事項を守り、練習場所の安全を確かめるなど、健康・安全に留意して練習ができるようにする。

男女共修であることに留意し、男女差、体格差、筋力差を考慮したうえで、指導を進めていく。

②単元の目標

技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにし、また、伝統的な行動の仕方を守ることなどに意欲を持ち、健康や安全に気を配るとともに、礼に代表される伝統的な考え方を理解できるようにする。

男女共修の体育授業へのイメージを少しでも改善できるようにし、男女共修の在り方についても考えることができるようにする。

③単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
・剣道の特性に関心を持ち、学習に進んで取り組もうとしている。 ・礼儀を意識し、互いに協力し練習しようとしている。	・基本動作や基本打ちを身につけるための練習を工夫して、計画的に学習できる。 ・間合いや体さばきの機会の方法を考え、練習している。	・相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開するための相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技ができる。	・剣道の基本知識や専門用語を理解している。 ・基本動作、基本となる技について理解している。

④単元計画

1	2	3	4	5	6
オリエンテーション 武道的素養となる遊びの体験 礼儀・作法	基本動作 素振り 基本技稽古法	素振り 基本技稽古法	素振り 基本技稽古法	基本技稽古法 演技発表会の練習	演技発表会

⑤指導案および授業実施後の指導教員コメント

【1時間目】

○本時の目標

剣道の学習に積極的に取り組むことができる（関心・意欲・態度）

時間	環境・資料	学習活動	指導上の留意点	評価
5分	笛	1 集合して、整列する。 礼法を学ぶ。 ・左座右起 ・座礼	○出欠、体調、見学者の確認をする。 ○剣道は、相手に礼を尽くすことの大切さについて伝える。	
10分	ホワイトボード	2 オリエンテーション ・学習前の剣道のイメージ ・剣道キーワード ・準備体操（足さばき）	○生徒から出た剣道のイメージをホワイトボードに書くことでイメージを共有させる。 ○武道（剣道）の特性を理解させる。 ○足さばきについて教える。	・剣道の学習に積極的に取り組むことができる。（観察）
20分	竹刀	3 武道の素養となる遊びの体験をする。 ・目隠し鬼 ・足さばき鬼ごっこ（ネコとネズミ） 立会いの作法を教える。	○大きく発声させる。 ○相手と攻防する感覚をつかませる。 ○仲間とともに協力して積極的に活動させる雰囲気を作り出す。 ○いろんな相手と行う。 ○立会いの作法を教える。 ・自然体、中段の構えのポイントを理解させる。	
10分	竹刀	4 構えから実際に竹刀を振ってみる。	○他の生徒と一定の距離をとるなどの安全面に留意させる。	
5分		5 本時の振り返りをする。	○体調、怪我の確認をする。 ○本時の学習のポイントを整理し、次時の学習にどう生かすか説明する。	

《指導教員のコメント》

・左座右起および座礼の2人1組でのチェックが剣道の動作になれていない生徒には効果的である。



・足さばき指導をあえて、ステージの上で示範しながら生徒に見せることはより強い印象を残すことができる。

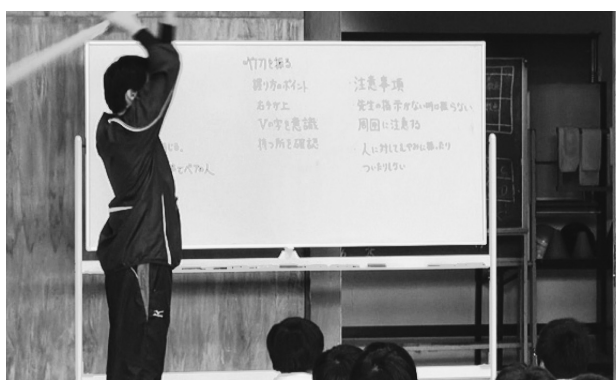


・足さばき鬼ごっこ（ネコとネズミ）が剣道的足さばき

につながっていない。また、後ろに転倒する生徒の出現も想定されるので、実施には要注意である。



・竹刀の握り方のポイントや振る際の注意事項があらかじめ板書されており、生徒への注意喚起がなされている。



・初心者にとっては、対面する指導者の左右を鏡写的に認知する場合があるので、留意する必要がある。竹刀の扱い方も指導を要する。



【2時間目】

○本時の目標

- (1) 剣道の学習に積極的に取り組み、安全に留意して練習することができる (関心・意欲・態度)
- (2) 基本動作について理解できる (知識・理解)

時間	環境・資料	学習活動	指導上の留意点	評価
5分	笛	1 整列する。	○出欠、体調、見学者の確認をする。 ○座礼で始める。	
10分	防具	2 防具をつける。 ・胴、垂れのみ	○防具をつけさせる。 ○簡単な付け方を教える。	
8分		3 基本動作を教える。 ・足さばき	○すり足を原則として足さばきをさせる。	・基本動作である足さばきの仕方を理解できる。(観察)
7分	竹刀	4 素振りをする。 ・上下素振り	○大きく発声させる。 ○リズムをとりながら、素振りをさせる。 ○他の生徒と一定の距離をとるなどの安全面に留意させる。	・剣道に積極的に取り組み、安全に留意して練習することができる。(観察)
15分	竹刀	5 基本技稽古法を学ぶ ・1の稽古法	○基本技稽古法の説明をし、元立ち、掛かり手の動き方を示範する。 ○元立ちの安全な方法を理解させる。 ○相手と呼吸を合わせることを意識させる。 ○残心について説明し、意識させる。	
5分		6 本時の振り返りをする。	○体調、怪我の確認をする。 ○本時の学習のポイントを整理し、次時の学習にどう生かすか説明する。 ○座礼で終わる。	



・大きく振りかぶって素振りをする際に竹刀のツバが自分の後頭部にあたる者が出ており、注意が必要である。



・基本技稽古法での元立ちの打たせ方指導が十分にできていない。竹刀を出す方向が逆になっており、打たれた衝撃をうまく逃がせない。

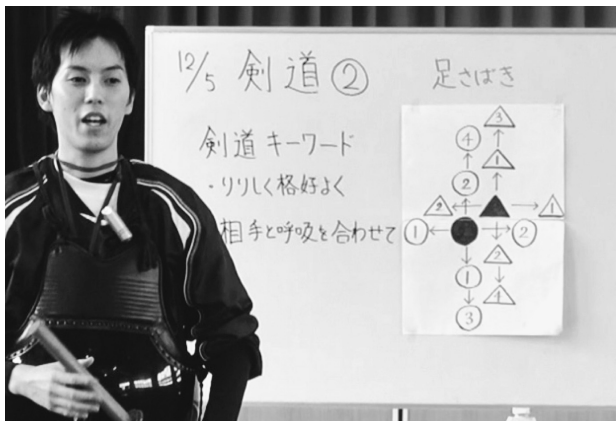


《指導教員のコメント》

・防具を着ける際には、立ったままではなく、立て膝もしくは正座でつけることが望ましい。そのことが礼法指導にもつながる。



・剣道キーワードと足さばきの図がわかりやすく提示されている。



・基本技稽古法(1)の概要がわかりやすく提示されている。

【3時間目】

○本時の目標

- (1)基本技稽古法のポイントを理解することができる(知識・理解)
- (2)基本技稽古法を凛々しく、格好良く取り組むことができる(関心・意欲・態度)

時間	環境・資料	学習活動	指導上の留意点	評価
10分	笛 防具	1 整列する。 防具をつける。	○出欠、体調、見学者の確認をする。 ○座礼で始める。	
10分	竹刀	2 素振りをする。 ・上下素振り	○大きく発声させる。 ○リズムをとりながら、素振りをさせる。 ○他の生徒と一定の距離をとるなどの安全面に留意させる。	
20分	竹刀	3 基本技稽古法を学ぶ。 ・1の稽古法	○基本技稽古法の説明をし、元立ち、掛かり手の動き方を示範する。 ○元立ちの安全な方法を理解させる。 ○相手と呼吸を合わせることを意識させる。 ○残心を意識させる。	・基本技稽古法のポイントを理解することができる。(観察)
10分		4 本時の振り返りをする。	○体調、怪我の確認をする ○本時の学習のポイントを整理し、次時の学習にどう生かすかを説明する。 ○座礼で終わる。	・基本技稽古法を凛々しく、格好良く取り組むことができる。(観察)



《指導教員のコメント》

・教師の説明を聞く際の竹刀の扱い方の指導が徹底できていない。多くの者の竹刀が杖状態になっている。竹刀に対する知識と竹刀と心身の一体化を図ることの工夫が必要と思われる。



・教師の示範を見せる際には、生徒を座らせ、注目度を上げさせることが望ましい。



・面および小手の竹刀打ちでは、どうしても腰が引ける生徒が多い。腰が引けることで手打ちになり、姿勢が崩れている。右足を大きく踏み出し、左足を引きつけることが、初心者には難しく今後の指導法の課題である。

・基本の胴打ちで逆胴になっている場合が多い。野球のバッティングの形になることが多く、なぜ、相手の右胴（自分から見ると左側）を基本とするのかを理解させることが必要である。



【4時間目】

○本時の目標

(1)基本技稽古法を凛々しく、格好良く行うことができる (技能)

時間	環境・資料	学習活動	指導上の留意点	評価
10分	笛 防具	1 整列する。 防具をつける。 準備体操をする。	○出欠、体調、見学者の確認をする。 ○座礼で始める。	
25分	竹刀	2 基本技稽古法を学ぶ。 ・1の復習 ・5の稽古法	○基本技稽古法の説明をし、元立ち、掛かり手の動き方を示範する。 ○元立ちの安全な方法を理解させる。 ○相手と呼吸を合わせることを意識させる。 ○残心を意識させる。	・基本技稽古法を凛々しく、格好良く行うことができる。(観察)
15分	竹刀	3 本時の振り返りをする。	○体調、怪我の確認をする ○本時の学習のポイントを整理し、次時の学習にどう生かすかを説明する。 ○演技発表会の説明をする。 ・2本の規定演技を行うことを伝える。 ○座礼で終わる。	

・竹刀の振りかぶりが右に偏りすぎている。まっすぐ振りかぶるメリットの強調と自分の身体感覚をよくするための工夫が必要である。



《指導教員のコメント》

・授業の初めに、剣道キーワードを再確認させ、基本技稽古法「面抜き胴」の内容をホワイトボードに提示し、生徒にわかりやすく説明しようとしている。



・基本技稽古法「面抜き胴」の掛かり手が右斜め前に体を運ぶことが理解できていない生徒が多い。



・竹刀をしっかり止めるための片手振りの指導が生徒に理解されていない。竹刀の操作法につながる重要な事項であり、再度検討を要する。



【5時間目】

○本時の目標

- (1)基本技稽古法を凛々しく、格好良く行うことができる (技能)
- (2)ペアで話し合いをしながら、演技を考え、練習することができる (関心・意欲・態度)

時間	環境・資料	学習活動	指導上の留意点	評価
10分	笛 防具	1 整列する。 防具をつける。 準備体操をする。	○出欠、体調、見学者の確認をする。 ○座礼で始める。	
15分	竹刀	2 基本技稽古法を学ぶ。 ・1,5の復習	○基本技稽古法の説明をし、元立ち、掛かり手の動き方を示範する。 ○元立ちの安全な方法を理解させる。 ○相手と呼吸を合わせることを意識させる。 ○残心を意識させる。	・基本技稽古法を凛々しく、格好良く行うことができる。 (観察)
20分	竹刀 ワークシート	3 演技発表会の練習をする。 ・ワークシートに演技の流れを記入する。 ・演技の見せ方を工夫し、練習する。	○今までの基本技稽古法のポイントを説明しながら巡視する。 ○演技の見せ方に悩んでいるペアに対してアドバイスをする。	・ペアで話し合いをしながら、演技を考え、練習することができる。 (観察・ワークシート)
5分		5 本時の振り返りをする。	○体調、怪我の確認をする ○本時の学習のポイントを整理し、次時の学習にどう生かすかを説明する。 ○次時の演技発表会の説明をする。 ・2本の規定演技を行うことを伝える。 ○座礼で終わる。	



・防具の後片付けも正座ないし立て膝で行うことが望ましい。



《指導教員のコメント》

・基本技稽古法「面抜き胴」が教師の指示通りに実施できていない。どのような指導で本来の「面抜き胴」ができるのか試行錯誤が必要である。



【6時間目】

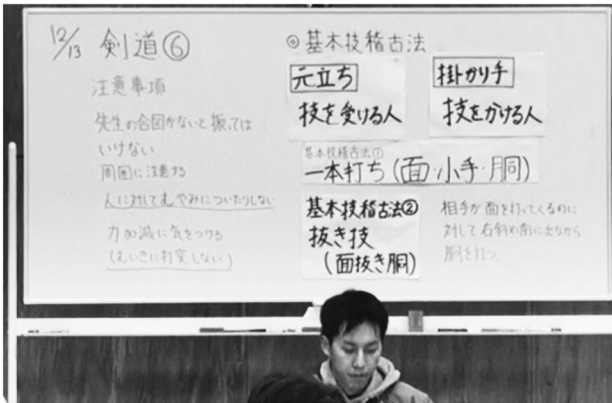
○本時の目標

- (1)基本技稽古法を基に演技発表ができる (技能)
- (2)互いにペアの発表を見て、賞賛したり、ワークシートに感想や考えを書いたりすることができる (関心・意欲・態度)

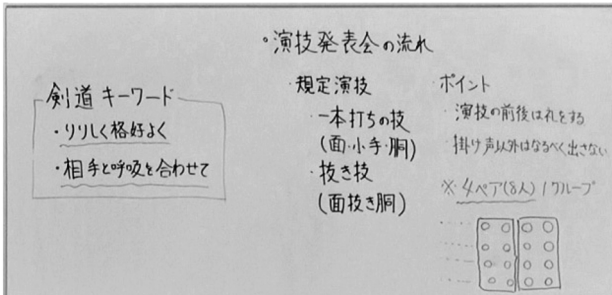
時間	環境・資料	学習活動	指導上の留意点	評価
10分	笛	1 整列する。 防具をつける。 準備体操をする。	○出欠、体調、見学者の確認をする。 ○座礼で始める。	
20分	竹刀 ワークシート	2 演技発表会の練習をする。 ・演技の見せ方を工夫し、練習する。	○ペアで呼吸を合わせることを意識させる。 ○今までの基本技稽古法のポイントを説明しながら巡視する。 ○演技の見せ方に悩んでいるペアに対してアドバイスをする。	
15分	竹刀 ワークシート	3 演技発表会をする。 ・2本の規定演技を行う。 ・ワークシートに他のペアのよかった点を書く。	○静かに演技が見られるよう場を設定する。 ○立会いの作法について示範する。 ○規定演技においては、一本打ちの技、抜き技とする。 ○互いに拍手を送ったり、褒め合ったりできるようにする。	・基本技稽古法を基に、演技発表ができる。 (観察)
5分		5 本時の振り返りをする。	○体調、怪我の確認をする。 ○本時の学習のポイントを整理し、次時の学習にどう生かすかを説明する。 ○座礼で終わる。	・互いにペアの発表を見て、賞賛したり、ワークシートに感想や考えを書いたりすることができる。 (観察・ワークシート)

《指導教員のコメント》

・本時の留意点ならびに演技発表会の流れが白板に事前に掲示されており、生徒への意識付けがなされている。



・授業中の竹刀に対する対応を考慮する必要がある。



・左利きの生徒への対応をどのようにするか検討が必要である。



・グループに分かれての演技発表会は剣道の雰囲気が出ており、充実感があつた。



4. 授業分析

本研究の剣道授業はすべて、デジタルカメラで収録し、授業ごとにパソコンに取り込み動画ファイルを作成した。その動画をパソコン上で視聴しながら、指導内容に検討を要するものにつながる場面を静止させ、画面コピーにより、その場面を画像として収集し、パソコン上に保存した。

また、授業評価と感想も授業ごとにエクセルに記入し、KJ法(川喜田1970)により、その内容分析をおこなった。この授業内容の分析は、平成28年度の大学院授業「教育実践フィールド研究」を受講生と担当教員により実施した。授業内容の分析は評価表の不備のため、その多くは今回掲載できないが、一部「指導教員のコメント」として前述し、また、以下の考察で使用する事とした。

1) 大学院生Aの構想した男女共修

大学院生Aの計画した男女共修の仕組みは、男女各2列の隊形を男女各1列が入れ替わることで、男女のペアを作らせている。また、このペアを基本的に変えず6時間目の演技発表会まで継続させている。なお、演技発表は4ペア8人で1グループ実施した。

授業後の感想の中に、「男女別でしたい」「男同士でやりたい」「女子同士でやってみたい」という記述がみられた。欠席者や見学者が出たとき以外は最後まで同じペアでの授業展開となっている。少ない授業時間の中で、相

手と呼吸が合った演技発表会を行うには有効と思われる一方、同姓とペアを組みたいという欲求も充足させる取組が必要である。



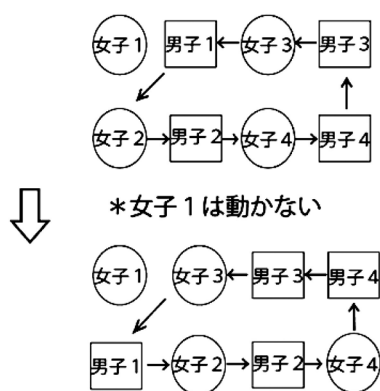
2) 指導教員Bの構想した男女共修と授業展開

前述したように1時間の予備授業時間を確保しており、その予備の体育授業時間で大学院生Aの後を受けて、指導教員Bが剣道授業を行っている。

そこでの構想としては次の3点を実施した。

- ①グループ内のメンバーが男子・女子の組合せ、同性同士の組合せ、すべてのメンバーとペアになるようローテーションさせる。
- ②なぜ、基本技として相手の左胴を打たないかの説明を実践的に行う。
- ③運動量を確保するために、できるだけ、多く竹刀を振る機会を与える。

上記①については以下のローテーション（女子1は移動しない）を実施させることとした。



グループ内すべてのメンバーとペアになる
ローテーション

②については、かつて武士が左腰に大小2本の刀をさしており、特に小刀が常に左腰にあるために左胴を打つことができなかったことを、実際に小刀を腰に差しながら、説明した。



③の運動量確保のために、ペア同士が上段に構え、教師の合図があるまで、互の胴打ちを出来るだけ多く交互に実施させた。その際、剣道キーワード「りりしく、かっこよく」「呼吸を合わせる」を再確認させ、「気剣体一致」の胴打ちを実演して見せている。



おわりに

体育授業での男女共修は本附属中学ですでに、水泳・剣道・球技等、すべての領域に於いて実施されている。ただ、対人競技でコンタクトのある領域においては本附属中学を含め、ほとんどがクラス内男女別修の授業実践となっている。また、「学習指導要領改訂のポイントQ&A」においても「コンタクトが伴う領域については、ある程度の配慮が必要・・・柔道では、組む相手を同性にするとともに、体力差、体格差を考慮し練習させる等の配慮が必要となる。」とされている。

本研究では、柔道的なクラス内別修形態から一步進めて、男女ペアの対人的な練習をあえて創出させ、剣道授業での男女共修のあり方を検討しようとしたものである。もちろん、剣道は柔道と違って、竹刀を媒介しての対人競技であるため、コンタクトの質が相違していることも考慮してのことである。

男女が互に過度に気遣い、消極的な学習になるのではないかとの危惧はあったものの、授業後の感想には「楽しい(累計65件)」「またやりたい(累計53件)」との記述があり、互いの違いやよさを認識できつつ、授業に取り組めていたように思われる。また、対人的なコンタクトがあるものの、竹刀を媒介とするため、絶妙な間が存在するため、男女共修には適した単元になり得る可能性が高い。さらに、グループ内のローテーションにより、同性同士・異性同士のペアを随時均等に出現させることは男女共修の意義を学ばせる方策として有効であると考えられる。

本フィールド研究では、従来の互いに試合形式で打ち合う授業ではなく、剣道基本技稽古法の形を演ずる発表会形式の授業展開に特化させている。

今後の課題として、この形を演ずることから、試合形式で互いに打ち合う剣道にどのように展開していくかが重要になってくる。その際、「剣道指導の心構え」で取り上げた竹刀の扱いと礼法をいかにコンパクトに充実した内容として指導できるかも検討を要する事項である。

さらに体育授業として、剣道授業が生徒の運動量確保と運動欲求をどのように充足させるかも大きな課題として残されている。

引用・参考文献

- 1) A. ベネット：クリケットと剣道と国際化（第5回剣道文化講演会）、『剣窓』全日本剣道連盟、pp12 - 16, 2007. 2
- 2) 木原資裕, 浅見裕, 大塚忠義, 松村司朗, 横山直也, 草間益良夫, 山神眞一, 境英俊, 太田順康：剣道実践にともなう阻害要因の検討－経験年数による違いを中心－, 武道学研究, 28 - 1, 1995, pp33 - 46
- 3) 木原資裕, 檜垣俊介, 小林弘樹, 李 柔那：中学校剣道授業における指導内容の検討－指導歴30年教師の剣道授業を中心に－, 鳴門教育大学授業実践研究, 10, 2011, pp83 - 91
- 4) 木原資裕, 村上徳恭, 西本浩章, 加藤弘貴, 横山健太, 舵貴一朗, 芦高裕郎, 木下臣人：教育実習生が行う剣道授業の検討－剣道初心者による剣道授業を中心に－, 鳴門教育大学授業実践研究, 12, 2013, pp123 - 129
- 5) 木原資裕, 西本浩章, 加藤弘貴, 横山健太, 真嶋健司, 三井克馬, 井口彩季, 水口勇人, 木下臣人, 吉田哲也：剣道初心者の教育実習生が行う剣道授業の問題点, 鳴門教育大学授業実践研究, 13, 2014, pp121 - 125
- 6) 木原資裕, 園山由華, 林祐輔, 中野竜太郎, 堀江修平, 金森優太, 秋津久範, 篠原健真, 田村律子：中学校体育授業「剣道」に於ける段階的指導の検討, 鳴門教育大学授業実践研究, 15, 2016, pp123 - 131
- 7) 木原資裕, 江口大祐, 森明日香, 草間益良夫, 坂東隆男：小学校における簡易試作用具を用いた剣道授業実践, 武道学研究 42 - 1, 2029, pp 9 - 21
- 8) 川喜田二郎：続・発想法－KJ法の展開と応用, 中央公論社, 1970
- 9) 本村賢一：中学校運動部活動における指導者と部員の意識構造－徳島県下中学校剣道部の指導者と部員の意識を中心に－, 鳴門教育大学大学院修士論文, 2004
- 10) 文部科学省保健体育課：学習指導要領改訂のポイントQ & A 中学校保健体育 平成22年2月
- 11) 長澤光雄：体育の学習における競争と男女共同参画に関する研究, 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要, 第28号, 2006
- 12) 中村民雄：剣道辞典－技術と文化の歴史－, 島津書房, 1993
- 13) 中村なおみ, 東原芳美：ダンス学習指導における実践的研究(2)－中学生を対象とした男女共修の試み－, 日本体育学会大会号 (40B), 1989, pp825
- 14) 中村なおみ, 東原芳美：ダンス学習指導における実践的研究(3)－中学生を対象とした男女共修の試み－, 日本体育学会大会号 (41B), 1990, pp768
- 15) 大島寛：大学体育におけるフットサルの指導に関する一考察－男女共習型授業の実践を通して－, 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要, 8(1), 2009, pp41 - 46
- 16) 大塚忠義：剣士に告ぐ－日本剣道の未来のために－, 窓社, 2005
- 17) 大塚忠義：日本剣道の歴史, 窓社, 1994

- 18) 大塚忠義：日本剣道の思想，窓社，1994
- 19) 大塚忠義，宇都宮伸二，坂上康博：のびのび剣道学校，窓社，1990
- 20) 村上周一：中学校における体育授業の在り方に関する研究－男女別習・共習に注目して－，早稲田大学スポーツ科学研究科修士学位論文，2008
- 21) 酒向治子，出原智波，平田麻里子，猪崎弥生：教師と教師教育者の協働による男女共修「現代的なリズムダンス」授業づくりの試み－O大学教育学部附属中学校の事例的研究－，岡山大学大学院教育学研究科研究集録，第185号，2015，pp169－181
- 22) 角正武：剣道年代別稽古法－道の薫り－，体育とスポーツ出版社，2000
- 23) 高橋建夫編著：体育授業を観察評価する－授業改善のためのオーセンティック・アセスメント－，明和出版，2003
- 24) 高橋建夫編著：体育の授業を創る－創造的な体育教材研究のために－，大修館，1994
- 25) 武田庸助，林修，梅野圭史，木原資裕：体育授業における人間関係力を高める運動教材の開発過程に関する研究－小学校4年生：スポーツチャンバラにおける学習過程の最適化－，教育実践額論集，第8号，2007，pp197－209
- 26) 梅津由美，高橋健夫：中学校男女共習体育授業における生徒の学習行動－特にマット運動の授業過程の分析を中心に－，日本体育学会大会号(44B)，1993，pp847
- 27) 好村兼一：剣道再発見－剣道の「深み」を求める稽古法－，スキージャーナル，2007
- 28) 全国教育大学剣道連盟編：教育剣道の科学，大修館書店，2004
- 29) 全国教育大学剣道連盟編：ゼミナール剣道，窓社，1992
- 30) 全国教育大学剣道連盟研究部会編：剣道の学習指導，不昧堂出版，1987
- 31) 全日本剣道連盟編：安全で効果的な剣道授業の展開ダイジェスト版 第2版，全日本剣道連盟，2014
- 32) 全日本剣道連盟：ホームページ，「剣道の理念」剣道指導の心構え，<http://www.kendo.or.jp/>

